

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

熊本県山鹿市
が応援するふるさと名物

～未来をつむぐ山鹿のシルク～

◎新シルク蚕業によりカイコが
生み出す高機能シルク



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

 **ATSUMARU
YAMAGA SILK**



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

地域の
プロフィール

熊本県山鹿市

金灯笼



さくら湯



熊本県北部に位置し、福岡・大分両県と接する山鹿市は、平成17年に旧山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町及び鹿央町が合併し誕生しました。市中心部は、江戸時代には参勤交代の宿場町として栄え、肥後細川藩の御前湯でもあった「さくら湯」や明治期の芝居小屋「八千代座」など、歴史・文化・観光資源に恵まれた地域です。

また、阿蘇に源を発する菊池川中流域の肥沃な土壌による穀倉地帯や、市北部の県境に近い中山間地域などでは、各々の地形を生かした多種多様な農産物が生産されており、農業は観光業と並ぶ市の主要産業となっています。



八千代座





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言



ワイン作りの伝統は活かしつつ、最新の醸造技術による非加熱処理を行い、葡萄本来の風味を損なわない生ワインによる最新の技術を導入してつくられたこだわりのワインです。

熊本県山鹿市

地域の
プロフィール

主要生産品目は、県内一の生産量を誇るたけのこや栗、食味ランキングで全国最高評価を獲得したこともある良質な米の他、スイカ、メロン、きんかん、アスパラガスなどで、恵まれた自然環境の中、更なる品種改良や品質管理などの取組みにも力を入れています。

また、近年では、本市菊鹿町において生産されたブドウを原料とした「菊鹿ワイン」シリーズが数々のコンクールで受賞を重ねており、それを生かした菊鹿ワイナリー構想も進んでいます。さらに、昨年4月には『米作り、二千年にわたる大地の記憶 ～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～』が日本遺産に認定され、二千年に及ぶ米作りの文化が改めて高い評価を受けました。



西日本一の生産量を誇る栗



彼岸花と稲穂のコントラストが美しい「番所の棚田」

1

主な地域資源

カイコ

◆シルク産業の再興・創生を目指すプロジェクト「新シルク蚕業構想」

本市は、熊本県の近代蚕糸業の開祖である長野濬平（しゅんぺい）氏の出身地であり、かつては非常に養蚕・製糸業が盛んな地域でした。しかし、輸入品の増加による国産シルクの需要の減少や生産農家の高齢化に伴う廃業などにより、全国的にも養蚕業は衰退の一途をたどり、本市内にも2軒の養蚕農家を残すのみとなっています。

このような中、平成26年10月、(株)雇用促進事業会（熊本市 現(株)あつまるホールディングス）の島田俊郎社長は、農業生産法人(株)あつまる山鹿シルクを設立し、新たな手法で、国内のみならず世界を視野に入れたシルク産業の再興・創生を目指したプロジェクトが始動しました。

◆天空桑園の造成

(株)あつまる山鹿シルクを中心に、本市から熊本県へと連携・協業の輪が広がり、耕作放棄地を桑園として造成し、廃校跡地に養蚕工場を建設する計画「新養蚕産業構想」を平成26年に立案。同年12月には、蒲島郁夫熊本県知事立ち会いのもと、島田社長、中嶋市長が「新養蚕産業構想に関する協定」の調印に至ります。

(株)あつまる山鹿シルクでは、まず繭の生産に欠かせない桑畑の造成に着手。本市小坂地区の25haの耕作放棄地を「天空桑園」として再整備しました。その名にふさわしく、遠く島原半島なども望める、標高600メートルの山上に、25haに及ぶ桑園が広がっています。



上空から見た25ヘクタールの天空桑園
(青塗りの部分)

◆世界最大規模の周年無菌養蚕工場の建設

従来の養蚕業は、年に3回程度しか繭の生産ができず、また蚕が伝染病に非常に弱いといった生産効率の低さという課題を抱えていましたが、課題を克服する「周年無菌養蚕システム」が国立京都工芸繊維大学で開発され、無菌・常温環境下で極力病気の発生を抑え、年間24回の繭生産が可能となります。

(株)あつまる山鹿シルクでは、無菌工場の実績とノウハウを持つ国内最大手ゼネコンである大成建設(株)の協力も得て設計施工。23億円という大規模な投資により、飛躍的な生産性の向上と国内最高品質の生糸の量産体制が構築できるという、まだ誰も実現したことのない画期的な養蚕工場が、平成29年4月に誕生しました。



～未来をつむぐ山鹿のシルク～

◎「新シルク蚕業によりカイコが生み出す 高機能シルク」

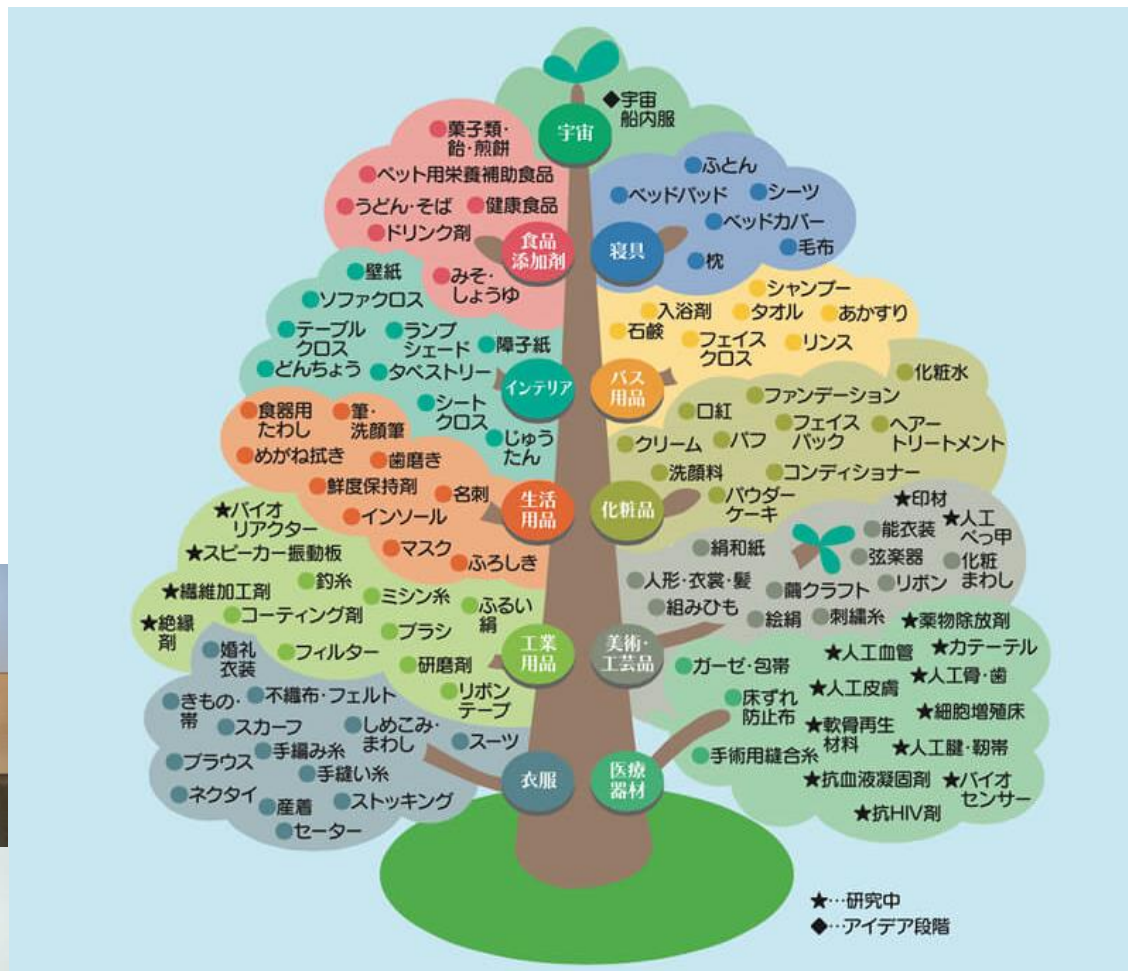
右の図にあるとおり「生糸」としてだけではなく、化粧品や医療関係など様々な分野への応用が可能で、既にシャンプーや石鹸などは製品化されており、今後は大学や専門機関と共同で研究開発を進め、世界に誇れる新たな付加価値と高機能を備えた『山鹿シルク』によるジャパンブランド力の向上を目指します。

2

ふるさと名物



◆シルクを活用することが可能な用途一覧



←シルクの持つ機能性や可能性の広がりイメージし、「SILK+MORE」で「SILMORE(シルモア)」というブランドが生まれました。



山鹿市の取り組み

1

市や協議会の支援・協力体制

【H26】

- ①新養蚕産業構想のための協定締結(事業者、市、県)
- ②施設等建設予定地の調査・情報提供及び地元説明(事業者、市)
- ③桑園造成に伴う関係道路整備・有害鳥獣対策・排水対策(事業者、市)
- ④国及び県補助金・交付金の有効活用(事業者、市、県、国)



協定締結調印式の様子

【H27～H28】

- ①桑園の整備(事業者)、アクセス道路の整備(市)
- ②工場建設開始(事業者)、補助金等による支援(国、県)
- ③セミナー開催・HP開設による市民等への情報発信・啓発(事業者、市)
- ④新シルク蚕業構想推進協議会の設立(事業者、市、県)



シルク工場起工式の様子



完成したシルク工場の全景

【H29】

- ①桑園の整備(事業者)、アクセス道路の整備(市)
- ②工場竣工・試験操業開始(事業者)
- ③安定生産に向けた飼料等の研究(事業者)
- ④サミット開催による関係企業・研究機関・自治体等の連携体制構築(協議会)
- ⑤学校等での蚕に関連した学習(協議会)

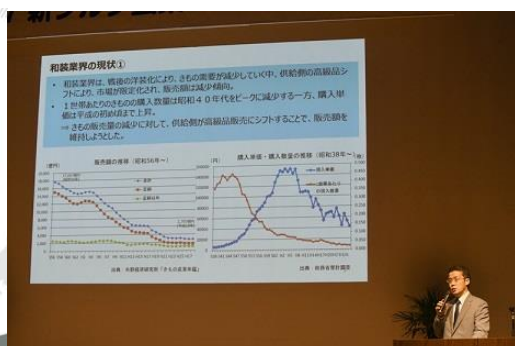
熊本県山鹿市

山鹿市の取り組み

2

広報・ タイアップ

◆本市においては、「やまが新シルク蚕業構想推進協議会」を設置し、国内最大の繊維取扱実績を持つ伊藤忠グループと連携したブランディング戦略の中で、市民周知のためのセミナーや、シルク関連事業者との交流及びPRのためのシルクサミットの開催、また情報発信基盤となるWEBサイトを構築し、対外的な広報活動を通じて先進性・優位性の確保対策など、様々な事業に取り組んでおります。



山鹿市で開催した
シルクサミットの様子

「SILK on VALLEY YAMAGA(シルクオンバレーやまが)～新シルク蚕業構想～」プロジェクトの推進によって、本市では、大きく四つの効果を見込んでいます。

まずは①桑園・工場の拡大による遊休地・耕作放棄地の解消です。続いて②工場の稼働、関連産業が集積することで生まれる地元雇用の創出や、若者などの定住促進です。さらに③地場企業などと連携した6次産業化の推進や地域産業の活性化④世界に誇れる新たな付加価値と高機能を備えた『山鹿シルク』によるジャパンブランド力の向上と交流人口の増加を目指します。

養蚕工場での直接的な雇用増などの効果だけでなく、本市における「まち・ひと・しごと」づくりの全てに寄与する、まさに地方創生のモデルとなる取り組みへと育てていきたいと考えています。

熊本県山鹿市